

伊賀市青山郵便局私書箱 2 号
伊賀・水と緑の会
浜田不二子

淀川流域委員会
木津川上流部会 様

1 はじめに

いよいよ河川整備に対する意見書取りまとめの期日が迫って参りました。

伊賀・水と緑の会は、月 1 回の例会で、必ず川上ダム建設計画についての話し合いや、講師を招き学習会をして来ました。

その度々に出される結果は「川上ダムはいりません」です。

780 兆円もの赤字になっている国の財政に、追い打ちをかけて新たにダムを造らねばならない納得する理由を説明していただいております。

一部受益者のために造ろうとしているのでしょうか。マータイさん風にいわしてもらえば、大変に「もったいない」といわねばなりません。

造る理由の無いダムに高額を投じるよりも、投じねばならない被災地が次々現れている災害多い日本の状況をふまえるべきだと、申し上げたい。

2 木津川上流河川事務所の対応に誠意がみえません

8 月 21 日、名張で行われた木津川上流部会以降、再三・再四私たちの会は木津川上流河川事務所に「まずは治水について論議・話し合い」を申し入れてきました。しかし本日 8 日になっても一向に期日を定めて来ないのです。ところが、たった今連絡が入りました。9 月 30 日に指定して、尚かつ話し合いの席にマスコミ関係者が加わると出せない資料があるかもしれないということです。どんな内容を示して下さるといのでしょうか。それはそれで楽しみなのですが、9 月 30 日といえは、流域委員会の意見書はお手元を離れて数日後となります。これでは意味が薄れるからせめて 9 月 25 日以前にと変更を願ったのですが譲ってはもらえませんでした。

国交省、全国総合開発計画が 2・3 日前の新聞誌上で発表され、環境影響を重視した公共事業の見直し云々の内容でした。

京都議定書に現れているように、世界の流れはこの大切な地球の星のいのち - いつまで保つのかに関心が集まっていて、日本もその流れに乗ろうとしているのです。

この時に、河川局は川上ダム建設の理由付けに苦慮して、当会との話し合いをあとまわしにしていると、受け取れなくもありませんでしたのでご報告します。

3 ダム関連工事による近隣の里山に変化が現れる

今年の春は近くの藪にて鳴くウグイスの音が、いつもよりずっとずっと少なかったです。ダム建設予定地から直近で 3・4km の所で、感じていました。

関連道路の工事が進み、ダム予定地内の森林が次々伐採されてゆく中での現象です。人里をこわがらず涼しい夏の朝なら、いつでも鳴き声がきこえて、それだけで優雅な気分になれる。里山に住む者ならではの恩恵の証であるウグイスは一体どこへ消えていったのでしょうか。お陰で春を実感することのできない淋しい春でした。

どうかこれ以上、私たちの伊賀の里山を傷つけないでいただきたい。切なる願いです。このみどり豊かなふるさとを豊かなまんまで子や孫に手渡してやりたい。唯、それだけなのです。

4 おわりに

さてさてこれでは立ち退き、移転を余儀なくされた方々のご心情は乱れるばかりなのでしょう。ダムの水にどっぷりと沈むふるさとがよいのか、それとも彼の地を以前にも増してみどりに溢れたふるさとに甦らせ、親林公園プランなどなど、いくらでも夢の広がるふるさとになるのがよいのか、お尋ねしてみたい気持ちでいっぱいです。

川上の地に汗して働き眠る、今は亡き先輩おひとりおひとりの発言しようにもできない御霊のお声にこそ心鎮めて耳を傾けてみたいと、思い続けています。